

一方、蛍光分光光度計を用いて α 、 β 、 Y を求めた。白色度の尺度構成値と物理測定値との間の関係式を正規方程式により求めて検討した。

3. 白色度式を確立する場合、1つの実験式により、すべてを評価することは困難であり2つの層にわけて考えることが適切であると思われる。

すなわち1つは視感判定と β との相関がよいもので、微量な色味を中心に判定した場合であり、他は視感判定と Y との相関がよく、白さの度合を中心に判定した場合とである。

そこでこれらの実験式を用いる場合、前者には α 、 β の係数を大きくとり、後者には Y の係数に重点をおけば、蛍光および非蛍光白色物の評価に役立つと考える。

B-42 被服地の白さについて (第5報) 白色布の評価

椋山女学園大家政 ○加藤 雪枝
椋山 藤子

1. 蛍光増白剤の発達に伴ない蛍光増白物の白色度が問題となっている。しかし蛍光および非蛍光白色度を物理的に表示する方法はいろいろ検討されているが未だ体系づけられていない。

そこで白色布を UCS 系で表示した物理量と視感判定との関連を解析し、白色度を求める実験式を作成しようと試みた。

2. 種々の蛍光増白剤により濃度段階に増白した色味の異なる白色布30種と既製の白色布30種を試料とした。被験者 13 名により、一対比較法による視感判定を行ない。キューリックセンの方法を用いて白さの尺度構成を行った。